



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：都市空間への小さな介入

都市開発といえば、巨大街区や高層ビルなど、大きなプロジェクトばかりが思い浮かぶかもしれません。けれども、均一化しがちな現代都市に個性をもたらすのは、実は小さな建物や、土地に根差したコミュニティの活動ではないでしょうか。舞台美術や建築に携わるレジデント2名と、ユニークなアートホステル「クマグスク」を設立した在京都の美術家が意見を交わします。



アンナ・ヘンツェル（舞台美術家、衣裳デザイナー）
Anna Hentschel (Szenografin, Kostümdesignerin)

1982年生まれ。ベルリンで舞台美術を学んだ後、分野横断的な芸術家集団『インヴィジブル・プレイグラウンド』のメンバーとして、場（公共の空間）の特性にかなうゲームフォーマットを開発する。

ケレム・イエフダ・ハルブレヒト（建築家）
Kerem Jehuda Halbrecht (Architekt)

1978年生まれ。建築家、コミュニティデベロッパー。リアルタイムで行う建築コンクール『72時間アーバン・アクション (72HUA)』を立ち上げ、欧州や中東の都市空間で住民と共に「介入」を行なう。

ヘンツェルとハルブレヒトは、異なる年齢層や社会的・文化的な背景をもつ人々を結びつけるための建築に取り組んでいる。京都滞在中は、遊びや市民参加を促す建築について調査する予定。



矢津 吉隆（美術家、kumagusuku 代表）
Yoshitaka Yazu (Bildender Künstler)

1980年生まれ。京都市立芸術大学卒業。2006年までAntennaで活動したのち独立。立体を中心に様々なインスタレーション作品を制作。2013年フランスのブザンソンにAIR滞在。2012年から宿泊型アートスペース kumagusuku プロジェクトを始動、瀬戸内国際芸術祭2013に参加。2015年1月にKYOTO ART HOSTEL kumagusuku を正式オープン。京都造形芸術大学非常勤講師。kumagusuku.info

© Tomas Svab

第2部：グラフィックノベルは現実に迫れるか

グラフィックノベルとは、大人の鑑賞に堪える水準のコミックのこと。漫画やコミックは、戦争や災害などのハードな主題にどこまで迫れるか。デジタル技術などの進歩に伴うメディアの変化は、表現にどんな影響を与えるのか。広島の被爆少女、禎子のグラフィックノベル化に取り組むレジデントと、時事ネタから哲学的なテーマまでを守備範囲とする人気漫画家が語り合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



ヴィヴィアナ・カ梅ル（美術家、作家）
Viviana Kammel (Künstlerin, Autorin)

1977年生まれ。ベルリンで映画学と美術史を学んだ後、映像作品をはじめ、集合的・文化的記憶の現象をテーマに短編小説、脚本、エッセイ、グラフィックノベル等を創作。ベルリンの「フィルムギャラリー451」編集者として、シュリンクージーフやノイエンフェルスらの映画DVD編纂にも携わる。京都滞在中は、自身の背景をもとに、広島の被爆少女・佐々木禎子について調査し、グラフィックノベルを製作する予定。vivianakammel.wordpress.com



しりあがり 寿（漫画家）
Kotobuki Shiragi (Manga-Künstler)

1958年生まれ。多摩美術大学卒業後、パッケージデザインや広告宣伝等を手掛ける。1985年単行本『エレキな春』で漫画家デビュー。パロディーを中心とした新タイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、幻想的・文学的な作品など次々に発表。新聞の風刺4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなどで独自な活動を続ける一方、近年では映像、アートなど多方面に創作の幅を広げている。www.saruhage.com



小崎 哲哉（司会、構成）
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、編著書『続・百年の愚行』を刊行。realkyoto.jp



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分

京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などを用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



**GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA**